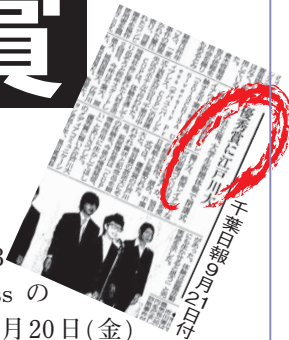


江戸川大学が優秀賞

千葉日報主催 ユニバーシティプレス



千葉日报社主催2013 CHIBA University Press の閉講式および表彰式が9月20日(金)にオークラ千葉ホテルにて行われ、江戸川大学は優秀賞を受賞した。(文・加茂沙織)

千葉日报社常務取締役編集局長である大澤克之助さんは、「他大学の多くが自分の学校や地域にまつわる記事を書く中、江戸川大学はアイドルサークルと一人カラオケという現在の学生たちの多様化する自己表現を対極的に見せてテーマに独創性があった。また、取材を丁寧に行っている。色々な方向から取材をし、

多角的な取材を重ねている。」と記事の独自性と取材の粘り強さを高く評価した。チームのリーダーである黒田真璃亜(マスコミ・3年)は「初めて経験できたことが多く、将来に活かせるいい機会になった。この3か月間の成果を優秀賞という形で結果に残すことができ嬉しかった。原稿を

何度も直し、最後まで粘ったかいがあった」とこれまでの苦労とともに喜びを語る。チバユニバーシティプレス

3か月かけて成果を出す

アイドルサークルに電話をしても、なかなか取材のアポが取れず最初の段階から苦戦した。そんななか上智大学や武蔵大学など快く取材を受けてくれた大学もあった。実際に練習を見せてもらい、

アイドルサークルのイベントやユニドル大会にも足を運んだ。同大会では出場する学生だけでなく、主催者にも取材をした。



2月4日の開校式で初めて千葉日報に行ったときに撮った写真だ。この後も5回ほど千葉日報に通い色々なことを学んだ。ユニドルのイベントの取材で渋谷や吉祥寺に行った。他にも、武蔵大学の練習を観るために江古田まで足を運びユニドル本部がある池袋にも行った。取材をたくさんしたことも評価され良かった。

ユニドル大会当日はステージに一番近い所で撮影し、華のある写真をとることができた。その写真をメインの記事に使ったことで紙面全体が明るくなった。

メイン記事であるユニドル大会は締め切り間近に開催されたので、下版ギリギリまで千葉日報に待ってもらった。原稿は、締め切りまで何度も直しを重ねた。納得のいく紙面を完成させるには粘りが必要だった。

企画からすべて自分たちで考えて進めたので3か月間あつても足りないくらいだった。新聞記者はこれをもっと短い期間でやっているとと思うとプロのすごさが身にしみてわかった。

